アスパラガス栽培管理（高温期～秋口）について

令和６年６月

アグリ技研（株）

1.　生育状況（夏芽収穫期）について

本年も昨年同様に夏場は高温の予報です。今後は高温の影響などにより茎葉の二次葉や二次側枝擬葉も多くなり、それに伴って夏芽の収量低下や品質面の　影響が表れて来ます。立茎栽培は、栄養成長と生殖成長のバランスですから地上部が余り旺盛になると若茎（夏芽）は低収や病害虫の増加になりますから　　草勢のバランス維持に努めましょう。

2.　これからの一般管理について

①　草勢維持について（根域の充実や茎葉の維持）

⑴「発根促進や草勢強化」（10a 当り）

◎草勢強化や夏芽の品質向上に、「**ウルル 10 号**」20kg を１月に２回程の灌水処理

◎品質向上や発根促進活性のために「**アミクエ**」5～10ｋｇを１月に２～３回灌水処理

◎草勢強化「**コラーゲン・ラボ**」500 倍+「**クドグリーン**」500 倍を５日置き葉面散布

◎連作圃場や立枯れ予防に「**豊作源**」を月に２～３袋施肥

◎発根・立枯性改善に「**亜リン酸有機８号**」を月に２袋施肥（土壌対策に有効）

◎茎葉硬化・品質向上に「**ＰＫゴー**」2000 倍の葉面散布（草勢のバランス）

⑵　追肥（夏芽は肥料を上手に使って増収）

「有機質肥料」

圃場の土壌条件	肥料名	10a 当たり使用量
一般的な圃場は	**センサイオール 1**	全収穫量 100kg で 1 回追肥に 1～1.5 袋
省力栽培の圃場は	**鮮彩ロング**	30 日置きに 3 袋

◎追肥は月に 1 回は通路にも施肥しましょう。

◎椿油粕施肥後は十分な潅水をしましょう

◎ＰＫゴー2000 倍を月に 3 回の葉面散布(草勢コントロール・バランス維持)

②水管理（梅雨明けの夏場は水管理で増収・品質向上は決まる）

今後の乾燥傾向の場合には、午前・午後にかけて数回に分けて水分を与えて吸収根の活性や光合成や茎葉維持を図る、又土壌水分で品質面（ワレ・サケ茎）の影響もある為に、土壌水分や施設内の湿度を高める。晴天日は毎日の少量多回数（気化熱）で行って地温上昇の抑制や湿度の維持に努めます。（乾燥圃場は、スリップス・ダニの発生を増加）

③温度管理（とにかく暑いので下温対策で増収と品質向上）

梅雨明け前は、極端な日中温 35℃以上にならない様に下温対策に努める。

対策は、遮光資材の散布・妻面のビニール除去・サイド面の換気・循環扇の設置・少量

多回数灌水を行って茎葉維持する。

（夜温 25℃、地温 28℃、日中温 35℃以上で異常若茎の増加します。）

「温度・湿度・株元冷却処理の関連性」

◎梅雨明け後（高温乾燥時期）の地温抑制や施設内湿度の調整は夏芽の収量や品質には

大きく影響しますので下温対策と水管理の関連性を考慮して十分な管理に努めます。

「生長点・株元の冷却や湿度を維持することで夏場の品質や収量向上になります。」

④病害虫抑制（褐斑病予防は 8/中旬までの防除で決まる）

秋に増加する褐斑病を防ぐには、予防は今です・・・「褐斑病の潜伏期間は 30 日、即ち

8/中旬までの予防防除で決まる」

高温多湿で発生も多くなり、特に褐斑病は胞子が茎葉に付着して見えるのに約 30 日を

要しますので、前年多かった圃場では徹底した防除徹底に努めましょう。

ダニ・スリップス類の予防防除も併せて実施しましょう。

また高温期の防除ですから薬害軽減に事前に潅水を行い、散布時間帯はなるべく

涼しい時間帯に防除をしましょう。

≪薬剤例≫　◎JA さんの指導方針を参考にお願いします。

薬剤名	対象	倍数
ﾀﾞｺﾆｰﾙ 1000	褐斑病・斑点病等	1000 倍
アフエット F	褐斑病・斑点病等	2000 倍

シグナム WDG	褐斑病・斑点病等	1500 倍
スピノエース顆粒水和剤	アザミウマ類	5000 倍
グレーシア乳剤	ダニ・ヨトウ・スリップス類	2000 倍
コテツフロアブル	ダニ・ヨトウ類	2000 倍

⑤茎葉整理（茎葉整理は大きく収量品質に影響）

側枝の除去や下枝は地上部から 60cm 程、摘枝・葉は垂れて日陰になる枝や葉のみ先端

や通路面の整理を行います、余りに極端な整理は、収量や品質低下となります。

二次葉や側枝の多い場合は、褐斑病や肥料吸収力が増すことで草勢低下となりますから

適切な整理とＰＫゴーを混用して硬化対策を図る様にしましょう。

《追加立茎の場合》

部分的に立茎数を増やす場合には、除々に増やす方法や 8 月中旬にかけて増やす。

1 株当たりはで 5 本前後で（Ｌクラス茎 1cm）㎡当たりには 18 本前後とします。